

今年の読書運動のテーマは、「**迷い**」です。
 今月の司書の部屋は、それにちなんで「迷い」に関する本を紹介します！
 どちらにしよう？な「迷い」や、この先の人生の「迷い」、
 道に迷ったの「迷い」、はたまた不思議な世界へ迷い込んでしまったの「迷い」...
 「迷い」にもいろんなとらえかたができますね。
 わたしが紹介する「迷い」の本は、

だまし絵の本。不思議な絵の世界にあなたも**迷い**こんでみませんか？

『錯視芸術 遠近法と視覚の科学』

フィービ・マクノートン 著 駒田曜 訳 創元社 2010

なんてことのない絵でも、よくよくみると、
 「あれ？これ変！」「どこがおかしい！」と
 ありえないところが次々にみつかる。

その時点で、わたしたちはもうすでに奇妙な絵の世界に
 迷いこんでいるのかもしれない。そんな名画あらため、
 迷画がこの中にはたくさんでています。

たとえば、「**遠近法の錯覚**」。遠近法による目の錯覚はとてもわかりやすく
 強力で不思議な錯覚を巻き起こします。ある法則にしたがって描くと、
 その周囲の空間が歪んで見えて、実際は同じ大きさや長さでも違って見えます。
 みなさんもきっとどこかでみたことがあるのではないのでしょうか。

次は「**二通りに見える絵**」見方によって2種類のものに見えてしまう絵です。
 人間の脳は両方を同時に把握することはできないので、ふたつの解釈の間を
 行ったりきたりするんだそうです。どちらかに注目してしまうと、もう片方の
 解釈は意識外になるように脳がしているみたいです。どこに注目してみるか
 によって絵がかわってくるとても不思議な錯覚をまきおこす絵ですね。だまし絵で
 有名な画家**エッシャー**は、1938年に『昼と夜』で、この2通りの見え方の絵を
 描いています。また、エッシャーはそれだけでなく、同時にそれにあわせ、時間の流れをもその
 絵にうまく描き出しており、美しく、幻想的な作品です。

この本の表紙にもなっています。

3つ目は「**天地さかさま**」の絵。これもテレビや本、どこかで見かけたことが
 あるかもしれません。上から見ても、下から見ても成り立つ絵、そして見る方向によってまったく
 違うものに見える絵。一体どっちからみればいいのかしらと迷ってしまいます。これは、わた

ちたちの脳内では、信じられないほどリアルな世界が
 無意識のうちにつくりあげられているからなんだそうです。

だからこそ、たとえさかさまになっていても、それを脳が無意識に解釈
 できるからこそその絵をいろんな方向からわたしたちは解釈することが
 できるのです。頭がくらくらしちやいそうですが、

これもまたとても不思議な絵ですね。

本をくるくるまわしているいろんな方向から楽しんでみてください。

錯覚、だまし絵はわたしたちの脳と目を通じて、わたしたちをふしぎの世界に迷い込ませる...

脳が元気になりそうですね！ただ、あまりに見すぎて、目が疲れて
 くらくらになっちゃわないように、休憩しながら見て楽しんでくださいね。

いろんな
だまし絵が
他にもいっぱい！

『脳と目の科学1 ふしぎな目』

クライブ・ギフォード 著 ゆまに書房 2016

もっとだまし絵が見たい人はこちらも 目と脳がもたらす錯
 覚のふしぎな絵がたくさん！3Dトリックアートや隠し絵、見
 ているとぐるぐるめまいがおきてしまいそうな絵...
 長時間眺めるのは要注意！

『エッシャーの描法で不思議な絵が誰でも描けるだまし絵の描き方入門』

杉原厚吉 著 誠文堂新光社 2008

だまし絵は見る人を錯覚で不思議な世界へと迷い込ませる...

それは描く人、描き方にトリックがあります。

だまし絵でどんな風を書くの？それがこの本には載っています。

ある法則に従えば、誰でも不思議な絵がかけちゃう！？

みなさんもふしぎな絵の世界を描き出してみませんか？

実際に描いて
みるのも
楽しいかも！

